

◎組合訪問記「全電線・三菱電線工業労働組合箕島支部」

# 地域全体の生活向上に 努めていくことこそ支部の使命

組合事務所



**Q1** まず三菱電線工業労働組合箕島支部の成り立ちについて。

三菱電線工業箕島製作所の成り立ちとして、まず第2次大戦終戦2年前の1943(昭和18)年に航空機用電線の専門工場として大日電線箕島工場が立ち上がりま

した。そして終戦の翌1946(昭和21)年に戦後の多くの企業別組合誕生の流れの中で、箕島工員組合・職員組合が結成されました。その年の12月21日午前4時過ぎに潮岬南方沖を震源とするM8の南海大地震により操業が一時停止となっております。その後、1947(昭和22)年に工員・職員

の組合が合併され、箕島工場労働組合が結成されました。その後、東京オリンピックの開催された1964(昭和39)年に大日電線と日本電線が合併し大日電線箕島工場となりました。1965(昭和40)年の最盛期には組合員数は800名を数えました。その後の不況や合理化等によつて、組合員数は減少し、1986(昭和61)年の社名変更により三菱電線工業箕島製作所となった直後では380名となりました。その後、一般被覆線生産中止による組合員の関西への転籍、応援などを行う中、1990(平成2)年に機器部品第二工場操業開始で新たなスタートを切っています。現在の組合員数は約240名(直雇用パート数約180名)です。現在の役員体制は中央派遣1名、支部執行委員長、書記長、執行委員2名の合計4名で活動を進めています。

**Q2** 三菱電線工業労働組合箕島支部の伝統の中で、大切にしていることは？

田舎でもありますので、働いている方も箕島・有田の地域で生まれ、働き、この地域で生活し一生



●全電線・三菱電線工業労働組合 箕島支部

執行委員長 **竹中 照幸**  
たけなか・てるゆき



書記長 **大上 裕**  
おおうえ・ゆたか

を送ることを望んでいる人が多くいます。こういった状況の中で、地元に対して、箕島という地にある工場・職場として今後も存続していかなければならないということが一番大事なことであると考えています。箕島・有田という地域は、雇用の場が他の地域に比べて少ないことから、今後も存続しつづけて、組合員の生活と雇用の場を守り、向上させること、更には、パート雇用の方も含めての、地域全体の生活向上に努めて行くことこそが、支部としての使命であり、大切にしていきたい守るべき伝統だと考えています。

**Q3** 箕島支部の主な組合活動の内容と特徴点について。

基本的に全電線や当労組中央本部の方針に沿って活動を進めています。支部としては組合員の生活・雇用を守ることが大前提であり、そのための地



上：第80回連合和歌山有田地協メーデー  
下：連合有田地協クリーンキャンペーン

道な労使協議を行っています。それ以外にも連合有田地協協議会、労協への加盟などにより、地域のボランティア活動として清掃活動への参加や、組合員の家族も含め参加できる催し事への参加を進めています。最近では学習会や青年部主催のボーリング大会なども行い、組合員同士のつながり、組合員と地域のつながりを重視した活動に取り組んでいます。

**Q4** その中でも最近特に重点を置いている活動について？

最近では、特にワーク・ライフ・バランスの実現に向けて特に取り組んでいます。毎週末の金曜日を「一残業デー」として、全従業員が定時で退社することを進めてきましたが、最近では、社会状況の悪化を受け、製作所の受注状況も悪化し一部の職場を除きほぼ毎日が一残業デーの状態になってしまっています。しかしながら今後、受注が回復してきた際に、組合員一人ひとりへの仕事の負担量が大きくならないように、時間外労働の監視、または年次有給休暇の取得促進に重点を置いていきたいと考えています。



社員食堂で開かれた支部定期大会

**Q5** 箕島支部としての現在の課題とそれへの挑戦について？

箕島支部は新入社員の採用をここ数年実施しており、若年層が他支部に比べ増加していますが、やはり若い方の組合離れが進んできています。

製作所が田舎にあり、車での通勤がほとんどで昔ながらの帰りに二杯でコミュニケーションをとったことも難しい状況です。また、最近の若者は個々の活動を重んじることが多いようでまとまって組合行事に参加してもらったこともなかなか難しくなっています。今後は若年層の組合員にどのような形で組合活動を理解してもらい、いかに参画してもらえんのかを課題の一つであります。

また、全組合員に対しても、現在そして今後も暫くは続くと思われる厳しい社会情勢・企業

実態のなか組合員の生活・雇用を守る為にとどのような組合活動が出来るのか、このような状況の中の活動をどう理解してもらったかが課題であり努力していかねばならないことであると考えています。

**Q6** 組合活動を進めるに当たってのモットー、組合員の役割についてのご自身の考えなどについて？

【竹中委員長】 私は委員長になって1年目ですが、課題は次期役員とのつながりをどうしていくかです。このようななか、職場の声をいかに吸い上げ会社側に申し入れていくのかを次期役員に継承していきたいと思っています。

労働組合の役割は組合員の雇用を守る事であるとともに、組合役員を育てていかなければ組織は成り立ちません。そのためには職場の皆さんとの対話を大切にして協力を仰いでいきたいと考えています。

【大上書記長】 私は、五年ほど前に中途採用として箕島製作所で働く事となりました。前職では組合というものが無く、今と比べて賃金や処遇も低いものでした。採用され、三菱電線で働く事となった直後から、現状の処遇で仕事・生活が出来るのも、組合という組織があることが大きな要因であることを実感しました。その後、どういっわけか労働組合の組織で役員となつていますが、私が感じたように組合員に労働組合があつてよかったと実感できるように、努力していきたいと考えております。その為にも今まで以上に、組合員の皆さんの声を吸い上げなければと思っています。

(文責・編集 金属労協組織総務局)